

たけのこの病害虫被害(シナチクノメイガ等)に関するアンケート調査
調査結果報告

1. 目的

シナチクノメイガ等によるたけのこ藪への病害虫被害の実態を把握し、今後の病害虫対策等に役立てるため

2. 調査期間

令和7年10月10日(金)～11 月末日

3. 調査対象

長岡京市内でたけのこの栽培をしている人

4. 調査方法

農家組合員	農家組合長を通じて農家組合員(約 450 名)にアンケート用紙を配布。 当該アンケート用紙または長岡京市HPのアンケートフォームにて回答
農家組合員以外	長岡京市HPのアンケートフォームにて回答

5. 回収状況

有効回答数:121(内 アンケート用紙での回答 75 名、WEB回答 46 名)

6. アンケート結果について(サマリー)

各質問項目に対する回答件数等は別紙参照。

- ☐ 兼業農家・自給的農家(自家消費が主)が全体の約 75%を占める。〔質問①〕
- ☐ 年齢構成別では、70歳代～が全体の約半数(※60 歳代～に拡大すると全体の約 80%)。〔質問②〕
- ☐ 土持ち・間伐・追肥は大多数が実施し、丁寧に栽培していることがうかがえる。〔質問④〕
- ☐ 令和7年度の収穫量について、かなり減少(7割～)と大きく減少(4～6割)が合算 70%以上。〔質問⑦〕
- ☐ 令和7年度の被害発生地域は、回答数順に①奥海印寺→②井ノ内→③粟生。〔質問⑦〕
- ☐ 令和7年度に最初に被害を確認した時期は、6月頃(36%)と7月頃(43%)で約8割を占める。〔質問⑪〕
- ☐ 病害虫対策は、回答数順に①何もしていない→②被害竹の伐採→落葉や皮の清掃→④薬剤散布。〔質問⑫〕
- ☐ 取り組みの大半は農業者個人が実施。上記対策の効果について、大半は「効果は不明」だが、取り組みの中では「薬剤散布」が比較的效果が見えやすい。竹への粘着テープ貼付等の事例も。〔質問⑭～⑰〕
- ☐ 取り組みを「何もしていない」理由は、回答数順に①体力や体調の不安→②作業時間の確保困難。〔質問⑳〕
自由記述欄では、対策を講じても効果が薄いのでは、といったコメントも散見された。〔質問㉑〕
- ☐ 竹林病害虫防除対策事業補助金(令和7年6月補正)について、制度認知者のうち約15%が申請。〔質問㉒〕
- ☐ 制度認知者のうち未申請の理由は、回答数順に①防除対策を実施しなかったから→②補助対象となる物品を
購入しなかったから→③補助金額が少なかったから。その他記述では健康被害の不安も。〔質問㉓～㉔〕
- ☐ 市や府、国等に実施してほしい対応は、回答順に①安全で効果的な防除体制の確立→②補助制度の拡充(散
布作業の外部委託経費の補助や補助金額増額が主)→③病害虫の生態調査や被害の実態調査。〔質問㉕〕
- ☐ その他自由記述について、多数意見は今後のたけのこ生産維持への不安や空中散布の実現要望等。
行政主体の防除等、外部防除の要望が最も多く、高齢化等も相まって離農者増加が危惧される。〔質問㉖～〕